

# 令和4年度「スクール読書チャレンジ運動」実践報告書

学校名	佐賀市立中川副小学校 児童数 77 人	担当者名	光吉絹子 松永雅子 香月貴子
住所	郵便番号 840-2201 佐賀市川副町大字福富 1316 番地	電話番号	0952-45-0219

◆ご提出いただいた個人情報は、本事業のためのみに使用し、それ以外の目的に使用することはありません。なお、県における個人情報の取扱いについては、佐賀県プライバシーポリシー及び行動プログラム (<http://www.pref.saga.lg.jp/web/privacy/privacypolicy.html>) に定めています。

## I.取組前の宣言内容

宣 言	目 標	「楽しむ読書」から「深める読書」へ
	取組期間	令和4年 4月 6日 ~ 令和4年 11月 30日

※令和4年4月1日以降、各学校が取組みを始めた日から、令和4年11月30日までの取組みとする。

## II.取組後の評価

評 価	取組人数	77 人	実施日数	131 日	読書冊数	12713 冊	連携した団体数	3 団体
	取組内容（概要）	(1)「楽しむ読書」を中心とした取組 (2)「深める読書」を中心とした取組 (3) 地域などと連携した取組						
	工夫したこと	(1)「楽しむ読書」を中心とした取組 ①4月に図書委員会を中心として1年間の貸出し目標を設定。低学年 200冊、中学年 150冊、高学年 100冊を目標に活動を行った。図書館の廊下には貸出冊数が増えるごとに名前を書いたリンゴの色が変わる「どくしょの実」と、冊数に応じて名前札を移動する「どくしょロケット」があり、自分の貸出冊数がどれくらいなのか把握できるようした。 ②100冊読むごとにくじびきやガチャガチャを使って、プラス貸出し券やプラス貸出し券入れ、しおりなどのプレゼントを渡した。400冊からはトロフィーを渡すことになっていて、トロフィーを目標にしている子どもたちも多い。 ③としょかんまつりでは新型コロナウイルス感染拡大防止のために、密を避けたイベントを図書委員会で企画した。「としょかんすごろく」、「しおり展覧会」、「まちがいさがし」、「ぬりえ」、「としょかんクイズ」など集まらずに個人でできる取組を行った。 ④図書館前の廊下の棚には、その月にまつわるテーマで司書が選んだおすすめの本を紹介している。としょかんまつりの時期の6月は図書委員、10月は先生のおすすめの本を特別に紹介した。また、定期購読している「としょかんニュース」で紹介された本やメディアなどで話題の本も随時紹介している。 ⑤毎学期、終業式に学年ごとの多読賞と飛躍賞の表彰を行った。平成31年度から始めた飛躍賞は、前年度より貸出数が増えた子どもを対象としていて、今年度の1学期は対象となる2年生以上の児童64名のうち31名が表彰された。 ⑥字を追いながら読むことに苦手意識のある子どもたちへの読書支援として、佐賀県まなび課から配布されたリーディングトラッカー（楽よみしおり）を図書館で貸出した。また、希望者には図書館で作成したリーディングトラッカーをプレゼントした。						

	<p>(2)「深める読書」を中心とした取組</p> <p>①各学年の国語の教科書で紹介されている本を、中っ子 30 選として必読図書にしている。平成 31 年度からは、すべて読み終えた子どもには新しい貸出カードをプレゼントした。また、「どくしょの実」のリングに「中っ子 30 選達成」の葉っぱをつけて、目に見える形で達成したことを確認することができるようにした。</p> <p>②10 冊本を借りるごとに「どくしょのきろく」に感想を書くようにしている。書いた感想は廊下におすすめの本として掲示することで他の子どもたちへの読書推進になっている。</p> <p>③子どもたちが借りる本は 9 類に偏りがちであるため、いろいろな分類の本を手にする機会となるように分類ビンゴを行った。指定された分類番号の本を借りるとビンゴカードにスタンプを押してもらい、ビンゴになるとくじ引きができるようにした。</p> <p>④本校図書館では毎日小学生新聞を定期購読しているが利用者は少なかった。このため今年度より N I E コーナーを作り、新聞の記事を掲示した。記事に興味がある子どもには、写真付きのワークシートを渡し、書いたワークシートは N I E コーナーに掲示した。また、N I E コーナーには付箋を置き、ワークシートに対する感想を貼れるようにした。感想の付箋がつくことはワークシートを書いた子どもの自信につながり、再度ワークシートにチャレンジするモチベーションにもなっている。</p> <p>(3) 地域などと連携した取組</p> <p>①第 1 月曜日の朝の時間に地域ボランティアの方や P T A の読書係の方による読み聞かせを行っている。</p> <p>②今年度は平和学習の一環として地域の方の戦争体験を聞く機会があった。このため図書館では常設している平和コーナーだけではなく、平和についての新聞記事の掲示や校長先生や司書が選んだ平和の本の紹介を並行して行った。</p> <p>③1 1 月には「家読週間」として家族で読書を楽しむ取組を行った。「家族で本を読んだり、本について話してみよう」という呼びかけでワークシートを配布した。ワークシートを持ってきた子どもにはプレゼントを渡した。家読週間の間は家読用に 1 冊多く本を借りることができるようにした。</p>
<p>取り組んだ感想</p>	<p>本校の子どもたちは図書館利用が多く、昨年度の 1 年間の貸出し目標達成率は約 8 0 パーセントで、平均貸出数は 200 冊を超えている。一方で読み物の本に偏りがちであり、特定の本ばかりの読む子どもが多かった。このため様々な本に触れることを意識した取組の結果、9 類以外の本を借りたり、互いに面白い本を教え合う光景が見られたりした。小学校時代は本が身近にある環境である。小学生の時にたくさん本に触れることで、自分にとって特別な本との出会えるようにこれからも手助けしていきたい。</p>
<p>これまでの取組や今後の取組予定</p>	<p>本を手に取りたくなる環境整備やイベントを行った結果、友だち同士で自分のおすすめの本を紹介する光景がみられた。今後はただ本を手取るだけではなく、本についての情報を発信できる取組にも挑戦していきたい。今年度はできなかった図書委員会を中心とした読み聞かせや、読書郵便システムの恒常化、P O P コンテストなど、としょかんまつりを利用しながら行っていきたい。</p>

(1)「楽しむ読書」を中心とした取組

①読書の実と読書ロケット



【読書の実】貸出数 30 冊、50 冊、100 冊、150 冊、200 冊、250 冊、300 冊、400 冊、500 冊と増えるごとに色が変わる。



↑ 必読図書である中っ子 30 選(2-①)を達成した場合はりんごに葉っぱが付く。



【読書ロケット】数が増えるごとに名前札を移動する。自分で移動させることができるので、自分の貸出数を意識することができる。特に低学年は名前札を移動させることを楽しみにしている。

②100 冊ごとの賞品



【100 冊達成、200 冊達成くじびき】100 冊達成時はしおりとプラス券が 1 回～3 回分、200 冊達成時はプラス券入れとプラス券 2 回～4 回分が入っている。大きなくじ引きの箱なので、初めて見る 1 年生は、毎年びっくりしている。



【300 冊達成ガチャガチャ】マグネットしおりとプラス券が 3 回～5 回分入っている。ガチャガチャを回す時はどの学年の児童も嬉しそうである。



【400 冊達成、500 冊達成トロフィー】賞状とペットボトルで作ったトロフィーとおりがみのコマを渡している。教室で担任の先生より表彰してもらう。500 冊達成した場合は大きなトロフィーで表彰する。毎年 500 冊のトロフィーを目指して頑張っている。

③としょかんまつり (人気のイベントを抜粋)



↑特に人気だったのがとしょかんすごろく。高学年の児童の来館が増えた。

どくしょ玉入れは運動会が終わってすぐの時期であるため、全学年の関心が高い。毎日数を数える児童もいる。勝った組は 1 冊多く本を借りることができる。→



←図書館の中に貼られたカエルを目印にクイズを探して答える。1 年生は 2 択、2 年生は 3 択で答えるようにしたり、高学年専用問題を作ったり工夫した。普段は利用しない本棚にも足を向けるきっかけになっていた。

④おススメの本の紹介



司書による毎月のおススメの本と季節の詩

先生のおススメの本は特に人気

話題の本などの紹介



←SDGs コーナー (常設)

SDGs と関連がある本を見つけると、カウンターでラベルを貼ってもらいSDGs コーナーに置くことができる。今年度は特にSDGs に関連する読み物の本を意識した。

⑤多読賞と飛躍賞の表彰

全校生徒の前で校長先生より表彰を受けることができ、子どもたちの自信につながっている。多読賞だけではなく飛躍賞も設けることで、他者と貸出数を競争するのではなく、自分の目標冊数に向かって読書をする事ができている。



⑥リーディングトラッカーのプレゼント



佐賀県まなび課から配布された「楽よみ!しおり」の貸出しをしている。また「楽よみ!しおり」を参考に、プラバンとビニールテープでリーディングトラッカーを作成した。「読むのが苦手な子」を対象にするのではなく、「読みやすくなるしおり」として希望者全員に配布することで、使いやすい環境になるように配慮している。

(2)「深める読書」を中心とした取組

①中っ子 30 選

中っ子 30 選には長く読み継がれている本や、今日的なテーマを扱った作品が多く、読み応えあるものが多い。選書の好みがちがちな子どもたちが読書の幅を広げたり、質を高めたりするのに有効である。

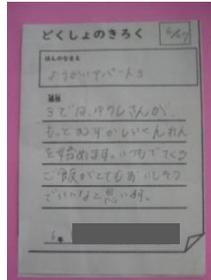


②読書の記録

10 冊本を読むごとに自分がおもしろかった本の名前と感想を「どくしょのきろく」に書いている。書いたどくしょのきろくは廊下におススメの本として掲示している。本の感想を書くだけではなく、おススメの本として掲示することで、他者を意識して自分の気持ちを発信することに繋がっている。また、友だちのどくしょのきろくを見ることで紹介された本を借りていくことも多い。



↑書いた記録は貼りつけて保管。卒業時に渡す。



廊下に掲示→



③分類ビンゴ

としょかんビンゴ 4・5・6 年用

本のラベルを見て本をかりてみましょう。スタンプをおします。ビンゴできるかな？（1日1マスです）

8類 言語 小説、詩など	4類 技術、音楽など	5・6類 科学、産業など
2類 歴史、地理	E 絵画	933 外国の物語り
913 日本の物語り	7類 動物、植物	1・3類 算数、社会など

年



1 列揃うごと  
にとプラス券  
がもらえ、全て  
揃うとくじ引  
きができる



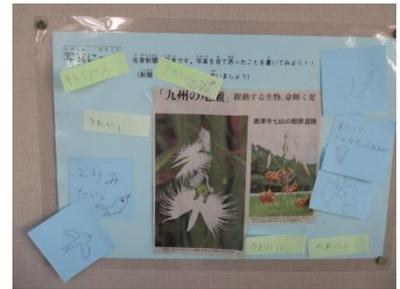
分類の本を借りるとスタ  
ンプを押してもらおう。

低学年用として新聞の写真を貼った  
ものに付箋で一言書いて貼りつける  
ようにしている。新聞へ興味を持つ  
第1歩となっている。↓

④N I Eコーナー



←毎日小学生新聞の記事を選び、ワーク  
シートに書いて提出する。貼られたワーク  
シートには感想を付箋に書いて貼る  
ことができ、友だちの意見に興味を持つ  
きっかけとなっている。またワークシ  
ートを書いた児童も感想を貼ってもら  
うことで、自信につながっている。



(3) 地域などと連携した取組

①朝の読み聞かせ

地域の方と保護者の方  
の読み聞かせをいつも  
楽しみにしている。→



←読み聞かせは低学年、  
中学年、高学年ごとに分  
かれて行っている。

②平和のコーナー



常設の平和コーナー



平和の本の紹介



平和の記事の紹介

③家読のワークシート



←家読をした  
日にちと本の  
名前をりんご  
に書いて提出  
する。

《貸出冊数の比較》

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	合計冊数
R 3 年度	802	1525	2799	704	1429	1416	1797	1949	12421
R 4 年度	903	1814	2765	596	1457	1352	1974	1852	12713
増減	+101	+289	-34	-108	+28	-64	+177	-97	+292

貸出数は昨年度と比較して 292 冊増加した。今年度は高学年で長編の小説を読む  
児童が増え、全体では読み物以外の分類の本を借りる児童が増えた。低学年では  
お互いに本の場所を教え合う姿があり、分類への関心が高まった。

